

促成栽培イチゴでのミヤコカブリダニを核としたハダニ類の防除体系

病害虫部

1 背景、目的

イチゴの促成栽培では、ハダニが最も防除が困難な害虫です。食の安全・安心が求められる中で、ハダニの防除にも天敵の利用が注目されていますが、今までの利用技術は防除効果が不安定等の問題点がありました。そこで、最近登録されたミヤコカブリダニを核とした防除効果の高いハダニの防除体系を確立しました。この体系は、誰でも簡単に天敵が利用でき、防除効果も高く、生産現場での飛躍的な普及が期待できます。

2 成果の内容・特徴

(1) 促成栽培イチゴでのミヤコカブリダニを用いた効果的なハダニ類の防除体系は、以下のようなスケジュール放飼を基本とします(図1・下)。

10月下旬のビニル被覆後にコロマイト水和剤(図中のK)を散布し、ハダニ類の密度を下げます。

11月上旬にミヤコカブリダニを約5頭/m²放飼します。

12月に約5頭/m²、1月と2月に2~3頭/m²のチリカブリダニを放飼します。

ハダニ類の発生が目立ったら、すぐにマイトコーネフロアブル等のカブリダニに影響の少ない薬剤を散布します。

(2) この防除体系では、放飼を開始する前にコロマイト水和剤でハダニ類の密度を下げておくことがポイントで、散布しないと(図1・上)防除効果が低下し、その後の殺ダニ剤散布回数が多くなる場合があります。

(3) ハダニの発生をモニタリングすれば、カブリダニの放飼コストをほぼ半分に下げることができます。その場合、ミヤコカブリダニを11月に放飼し、ハダニが増加してきたらチリカブリダニを放飼するか(図2・上)、小葉当たり約2頭になったら影響の少ない薬剤を散布します(図2・下)。

3 主要なデータなど

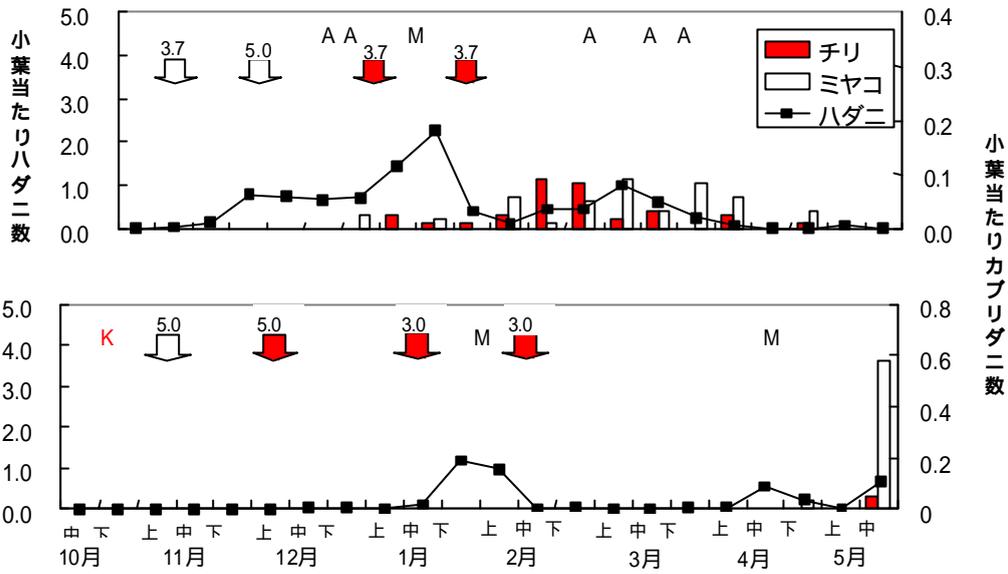


図1 スケジュール放飼体系のハダニに対する防除効果

: 放飼前の散布なし(上)・放飼前散布あり(下)

↓ : ミヤコカブリダニ放飼 ↓ : チリカブリダニ放飼 (数値はm²当たりの放飼頭数を示す)
 A : アカリタッチ乳剤 K : コロマイト水和剤 M : マイトコーネフロアブル

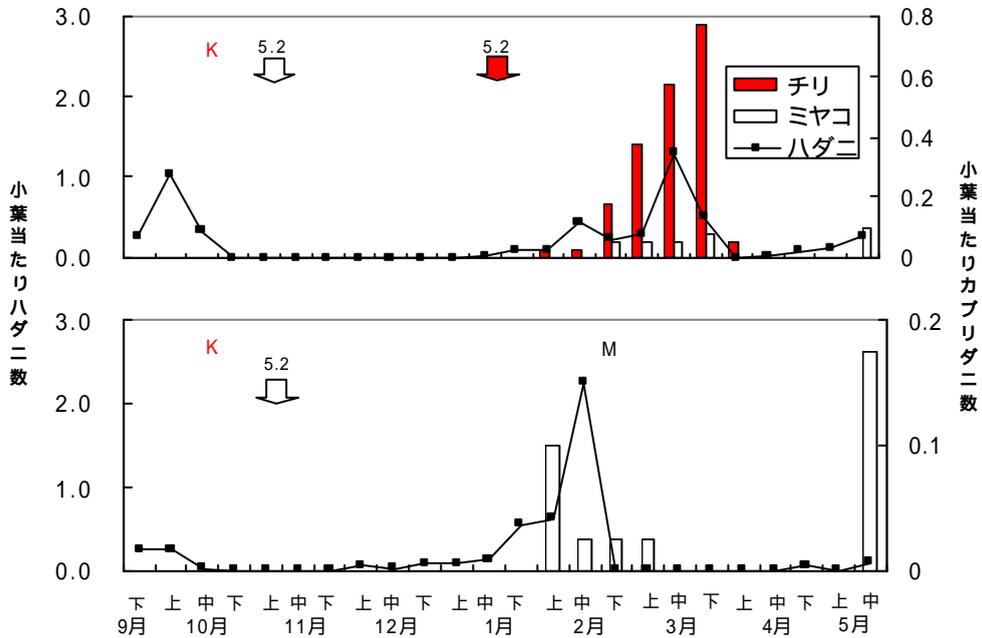


図2 モニタリングに基づく放飼体系のハダニに対する防除効果

: ミヤコ1回+チリ1回放飼(上)・ミヤコ1回放飼(下)